

2019年10月29日(第11回)  
2019年度JLA中堅職員ステップアップ研修(1)  
領域2区分B①

## レファレンスツールの評価

門上光夫(大阪府立中央図書館)

はじめに

- ・図書館の資料は膨大/利用者のニーズは多様
  - 図書館の資料:全分野(0門-9門)/大人向けから子ども向けまで/過去からの蓄積
  - 利用者のニーズ:全分野(0門-9門)/大人から子どもまで/必要とする情報の精粗
  - これを知らずばすべて大丈夫、絶対評価を得られるレファレンスツールはない。
  - 日々研鑽を積んで、「よいレファレンスツールとは何か」を体得していくもの。

本講義の目的:①日常業務の実体験の中から、よい「レファレンスツール」とは何か、に「気づく」。  
②それぞれの図書館でみなさんがレファレンスの際に工夫していることを引き出す。  
③その工夫をここにいる全員のものにして、レファレンス力の向上につなげていく。

### I レファレンスツールとは

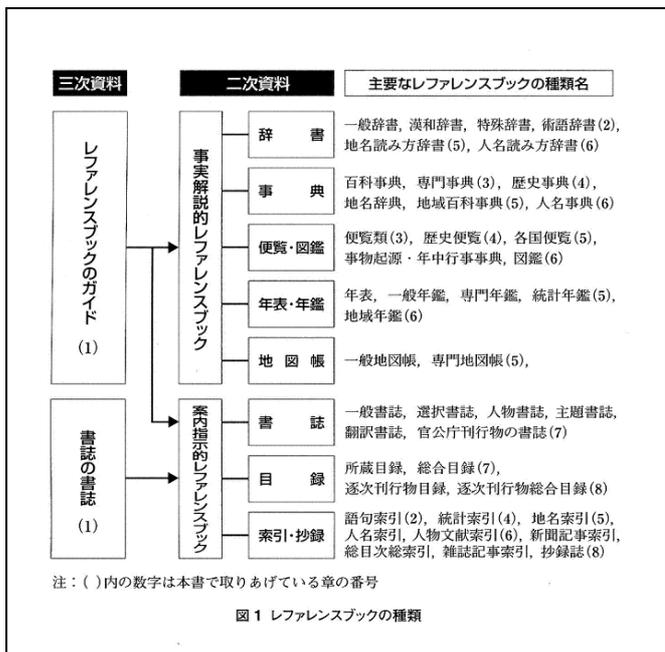
#### 1 情報サービスとは

#### 2 レファレンスサービスとは

レファレンスサービス=利用者が求める必要な情報や資料を入手するのを手助けすること。

#### 3 レファレンスルーツとは

・膨大な図書館の資料や情報と多様な利用者のニーズを結びつけるツール(道具)。



①参考図書:いわゆる辞典・事典類(事実解說的)および目録類(案内指示的)

- ・事実解說的なレファレンスブック:必要とする情報そのものを求めることができるもの(辞書、百科事典、専門事典、便覧、図鑑、年表、年鑑、地図帳、地名事典、人名事典・名鑑)
- ・案内指示的なレファレンスブック:情報ないし情報源への案内を主なはたらきとしているもの。求めている情報の「場所」を教えてくれる(書誌、目録、索引、抄録)

## 「レファレンスツールの評価」(門上光夫)

### ②インターネット情報

### ③自館作成ツール:各館で必要に応じて作成した目録類やパスファインダー

本日はこのうち、参考図書とインターネット情報について考える

## II レファレンスツールの評価

### 1 評価の目的

・評価の目的=図書館において適切なレファレンス・コレクションを構成するため

①適切なレファレンスツールのコレクションを構成するため、②特定のレファレンスブックの選択・受入れのため、③自館で所蔵するレファレンスブックとか新刊のレファレンスブックの情動的価値を理解するため、④利用者にそれを紹介するため

(『レファレンスブック選びかた・使いかた 三訂版』(長澤雅男/[ほか]著 日本図書館協会 2016.12))

・「評価に際しては、既存のコレクション中の個々の図書の情動的価値と利用者の要求とを十分に勘案しなければならない」

『情報源としてのレファレンスブック:新版』(長澤雅男/[ほか]著 日本図書館協会 2004.5)

### 2 よく使うレファレンスツール:事前課題の結果から

(※支持率は受講生中何名の支持を得た参考図書またはサイトを示しています)

#### ◎日頃の業務でよく使う参考図書(上位5位:詳細は【参考資料1】)

順位	書名	出版者	得票数	支持率
1位	『国史大辞典』	岩波書店	11票	32.4%
2位	『角川日本地名大辞典』	角川書店	8票	23.5%
3位	「地元の自治体史誌」		7票	20.6%
4位	「地域百科事典」		6票	17.6%
5位	『総合百科事典ポプラディア』	ポプラ社	5票	14.7%

(34名 全票数 79票)

#### ◎日頃の業務でよく使うインターネットサイト(上位5位:詳細は【参考資料2】)

順位	書名	URL	得票数	支持率
1位	NDLレファレンス協同データベース	<a href="http://crd.ndl.go.jp/reference/">http://crd.ndl.go.jp/reference/</a>	14票	41.2%
2位	NDLサーチ	<a href="https://iss.ndl.go.jp/">https://iss.ndl.go.jp/</a>	11票	32.4%
3位	NDLデジタルコレクション	<a href="http://dl.ndl.go.jp/">http://dl.ndl.go.jp/</a>	7票	20.6%
4位	絵本ナビ	<a href="https://www.ehonnavi.net/">https://www.ehonnavi.net/</a>	5票	14.7%
	県内図書館横断検索		5票	14.7%
5位	Google	<a href="https://www.google.co.jp">https://www.google.co.jp</a>	4票	11.8%
	NDLリサーチ・ナビ	<a href="https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/">https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/</a>	4票	11.8%

(34名 全票数 89票)

3 日頃の業務でよく使う参考図書・サイト:「理由」の使用語彙の分析から(【参考資料3】)

・ここから、よく使う参考図書やサイトは

- ①「手がかりが得られるもの」又は「調査の次のステップに進めるもの」  
→それは「網羅的で情報量の豊富な参考図書やサイト」
- ②書誌事項とその所在が得られるもの
- ③郷土関係の情報の載ったもの

○<参考>わたしが選んだレファレンスツール(2015)

第17回図書館総合展併設フォーラム 日外アソシエーツ主催フォーラムによる。

順位	書名	出版者	コメント	
1位	『国史大辞典』	吉川弘文館	日本史関連では必須の辞典。参考文献が載っていてよい。	1
2位	『角川日本地名大辞典』	角川書店	旧名や小さな事項もとりあげがあり、他に郷土の調べものの取っかかりが探せるので重宝している。	2
3位	『日本国語大辞典』	小学館	調査の糸口。	☆
4位	『理科年表』	丸善出版	こまごまとよく使う。理系はジャンルが細かいので、どれか1冊といたら、これかなあ、という感じ	
5位	『世界大百科事典』	平凡社	そのことから(物)について基本的なことをまず確かめることができる点。	☆
	『大漢和辞典』	大修館書店	漢字の読み、意味、解説はもちろん、漢文訳やその出店、漢詩人名の読み・時代や漢文収録資料が掲載されている。索引も豊富でいろんな引き方ができる。	☆
7位	『日本大百科全書』	小学館	あらゆる分野について調べられる。カラー図版も多く、参考文献も掲載されている。	☆
8位	『国書総目録』	岩波書店	データベースが発達したとは言え、古典籍を探すうえで、基本となる資料。古典籍のヨミを調べる場合でも、役立つ。	☆
9位	『現代用語の基礎知識』	自由国民社	基本的なことを調べる際に役立つ。レファレンスのヒントを探すのに良い。	
	『広辞苑』	岩波書店	お客さまのレファレンスを受けた際、まずこの本で探してから、さらに細分化させていきながら調べることが多いので、この本を推しました。	☆

[http://www.nichigai.co.jp/cgi-bin/ref2015\\_result.cgi](http://www.nichigai.co.jp/cgi-bin/ref2015_result.cgi)

インターネット情報源・DBの部もあり。

右端は課題での順位。☆は1票でも入っていた参考図書

! 日頃よく使うレファレンスツールがよいレファレンスツールであることを経験的に知っている。

4 レファレンスツールの評価の観点

- ・『講座・図書館情報学 8 情報サービス演習』(山本順一/監修 ミネルヴァ書房 2017.1)
- ・ネットワーク系:①提供に関わる要素、②内容に関わる要素、③操作性に関わる要素
- ・冊子体:①製作に関わる要素、②内容に関わる要素、③形態に関わる要素
- ・『レファレンスブック選びかた・使いかた 三訂版』(長澤雅男/[ほか]著 日本図書館協会 2016.12)
- ・製作にかかわる要素:編著者、出版者、出版年
  - ・編著者:編者や執筆者の経歴・著作・業績をみる。
  - ・出版者:その出版歴や専門領域をみる。専門家が素人か。
  - ・ドメイン名:ネットワーク系の「提供に関わる要素」の部分も。

## 「レファレンスツールの評価」(門上光夫)

- ・出版年:時代に応じて記述内容が変化することに注意する。
- ・内容にかかわる要素:範囲の設定、項目の選定、排列方法、検索手段、収録情報の信憑性
  - ・範囲の設定:隣接する関係分野を含んでいるか、また参考文献、附録による付加情報をみる
  - ・扱いかた:主題が一般的か特徴づけられているか
  - ・項目の選定:大項目主義か小項目主義かをみる
  - ・排列方法:50音順排列かなど。また長音等の扱いもみる
  - ・検索手段:容易に素早く目指す情報が探し出せるかどうか
  - ・収録情報の信憑性:時代に応じて記述内容が変化し、陳腐化することに注意。
  - ・無批判な孫引きかどうかを詮索する
- ・形態に関わる要素:印刷、挿図類、造本

### 「効率よく効果的に」結びつけることのできるツールがよいレファレンスツール

- ・何かわからない場合でも、何らかの手がかりが得られる資料
- ・調査の次のステップを導いてくれる資料
- ・信頼できる情報量の豊富な、容易に目指す情報が探し出せる資料
  - ※信頼できる＝出版社・編著者等の経歴
  - ※容易に＝検索手段や方法

### 5 レファレンスツールの限界

- ・どこまでしか調べられないかを知ることも重要な「評価」

## Ⅲ 意外な時に使えた参考図書およびインターネットサイト【参考資料4】【参考資料5】

- ・どんな時にどんなレファレンスツールが使えるのか、みんなのものにする。

### おわりに

- ①よい「レファレンスツール」とは、
  - ・日常業務の中でレファレンスを経験して研鑽を積んでいくもの。
  - ・経験的によいレファレンスツールを選択している。
    - 基本的にはよく使うレファレンスツールがよいレファレンスツール。
  - ・レファレンスツールの評価
  - ・レファレンスツールの限界を知ること。
- ②レファレンスの際に工夫していることは、
  - ・他の図書館や図書館員がどのようなツールを使ってレファレンスサービスをしているか、エピソードを交えて報告
- ③レファレンス力の向上につなげていく
  - ・レファレンス技術や能力アップ、活用技術に役立ててもらえたか？

【参考文献】

- 『情報源としてのレファレンスブック:新版』(長澤雅男/[ほか]著 日本図書館協会 2004.5)
- 『新現代図書館学講座 5 情報サービス論』(田村俊作/編著 東京書籍 2010.3)
- 『図書館で使える情報源と情報サービス』(木本幸子/著 日外アソシエーツ 2010.9)
- 『情報サービス論 (現代図書館情報学シリーズ)』(山崎久道/編集 樹村房 2012.4)
- 『情報サービス論(JLA 図書館情報学テキストシリーズ)』(小田光宏/編著 日本図書館協会 2012.8)
- 『図書館情報学用語辞典』第4版(丸善出版 2013.12)
- 『実践型レファレンス・サービス入門(JLA 図書館実践シリーズ1)』(斎藤文男/[ほか]著 日本図書館協会 2014.5)
- 『レファレンスブック:選びかた・使いかた 三訂版』(長澤雅男/[ほか]著 日本図書館協会 2016.12)
- 『改訂 情報サービス演習(現代図書館情報学シリーズ7)』(原田智子/[ほか]著 樹村房 2016.12)
- 『講座・図書館情報学 8 情報サービス演習』(山本順一/監修 ミネルヴァ書房 2017.1)
- 『図書館とレファレンスサービス:論考』(齋藤泰則/著 樹村房 2017.12)
- 『講座・図書館情報学 6 情報サービス論』(山本順一/監修 ミネルヴァ書房 2018.3)
- 『情報サービス論及び演習(ライブラリー図書館情報学6)』(中西裕/[ほか]著 学文社 2019.3)